

## 第 31 回生物学技術研究会への参加報告

技術センター 塩路 恒生

### 1. はじめに (目的)

生物学の研究に携わる大学及び研究機関等の技術職員が日常関わっている研究支援活動における成果や問題点の発表を聴講し、技術の向上、交流及び情報交換を図ることを目的として参加した。

### 2. 期間・場所

期間：令和 2 年 2 月 20～21 日 2 日間

場所：岡崎コンファレンスセンター（愛知県岡崎市）

### 3. 参加者等

受講者：全国の技術系職員 約 120 名

### 4. 研修内容

1 日目 ・「RNAi 法を用いた非モデル昆虫研究の新展開」

基礎生物学研究所 進化発生研究部門 新美 輝幸 教授

・ポスター発表 42 件

2 日目 ・一般口演 7 件、分科会（CRISPR/Cas9 について）

・奨励研究採択課題技術シンポジウム 11 件

### 5. まとめと感想

研修講演では、テントウムシやカブトムシを使った二本鎖 RNA の実験について講演があった。私自身も、理学部学生の自由研究においてテントウムシの飼育に協力したことがあり、非常に興味深く話を聞くことができた。その後、ポスターセッションにて、「キャンパスに生育する希少種の保全活動」という題目でポスター発表を行った。今回、総合博物館の先生方 3 名と共同で発表することになったが、技術職員が博物館と連携をして業務を行っていることに多くの方から高評価をいただいた。他大学の発表をされた技術職員とも相互に意見交換を行ない、アドバイス等もいただくことができた。2 日目の奨励研究発表では、実験実習教材の開発をテーマにしたものが多く、今後の配属先での業務の取り組み方について大いに参考となった。1 日目の親睦会がコロナウイルスの影響で中止になったのは非常に残念であったが、技術職員との情報交換は十分に行うことが出来た。

今回の研修において、広島大学での自然環境保全の取り組みについて、他大学へ向けてしっかりと情報を伝えることが出来たのではないかと考える。